

令和6年度田原本町戦没者追悼式式辞

本日ここに、多数のご遺族、並びにご来賓の皆様のご臨席を仰ぎ、令和6年度田原本町戦没者追悼式を挙行するにあたり、謹んで哀悼の誠^{あいとう}を捧げますとともに、ご遺族の皆様に心から哀惜^{あいせき}の意を表するものであります。

先の大戦が終わりを告げてから、早くも79年の歳月が過ぎ去りました。今、こうして戦没者追悼之^{しるし}標^{まこと}の前に、静かにたたずみますと、はるか異郷の地での熾烈^{しれつ}な戦いの中に、あるいは、内地を襲った激しい戦禍^{せんか}の中で、無念にも尊い命を失われた多くの方々のことしが偲ばれ、悲しみが胸に込み上げてまいります。

ここに、謹んで戦没者の方々のご冥福をお祈り申し上げます。

また、ご遺族の皆様方には、最愛の肉親を失われた後、激動の時代を勇気と忍耐をもつて乗り越えてこられたご努力に対し、心から敬意を表する次第であります。

私が約15年前、中東イスラエル・パレスチナ自治区の地を踏んだとき、不安定な国際情勢はありつつも、そこには生活者の営みがありました。家族や友人と過ごす住民の日常がありました。しかし今、その地では戦火が広がり、かけがえのない多くの命が失われ、さらには日々失われようとしています。その他にも、ウクライナをはじめ多くの地で戦火がいまだ止まず、憎悪や分断を生み出し続けています。我が国を取り巻く国際情勢が厳しさを増す中にあって、この現状を顧みれば、私たちはこれを他人事と捉えるべきでは決してなく、恒久平和を守り抜く決意を新たにしなければなりません。

今日、我が国は、ご遺族の皆様方をはじめ多くの先人の努力の末に、平和で豊かな社会を築き上げ、国際社会においても、大きな役割を果たすべき国家となりました。国内においては、社会保障や医療制度が確立し、すべての人々が自立して生きることを保障され、お互いが支え合う多様な時代を迎えております。しかしながら、この平和で豊かな社会が未来永劫続くという保証はどこにもありません。無心にただひたすらに平和を唱えることのみならず、その理念を日常に引き寄せて、住民の皆様すべてが個性を尊重し合いながら、多様な文化や価値観を受け入れ、共に支え合うまちとなるよう、ひいては、より一層、「幸せを感じられるまち」となるよう本町は全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、戦没者各位の御靈^{みたま}に永久の安らぎと、ご遺族の皆様方をはじめ本日ご参

列の皆様方のご平安とご健勝を心からご祈念申し上げまして式辞と致します。

令和6年10月23日

田原本町長 高江 啓史